

小学校低学年の時の夏、母が銚子旅行に連れていってくれました。当時総武本線はまだ非電化で、両国駅から冷房もない混んだ急行列車に乗った記憶があります。母の友人と、私と同年の娘さんも一緒に、銚子市のどこかに2泊か3泊したのだと思います。夜に霧が出て、犬吠埼の霧笛の音が聞こえました。

銚子市から利根川を挟んで反対側が波崎町（現在の茨城県神栖市波崎町）です。当時は利根川に渡し舟があって、それにも乗った記憶があります。波崎の砂丘で、その女の子と砂鉄を集めたり、防波堤でカニをとったり、一日中遊んでいました。中でも一番忘れられないのが「ツメタガイ」です。ごく平凡な巻貝なのですが、なぜか心ひかれました。きれいなものを選んで二人で何十個もひろって、小さなリュックが一杯になりました。

先日、小学校の出張授業で使う砂鉄を多く含む海砂を採りに、久しぶりに波崎砂丘を訪れました。汀線（波打ち際）から少し離れたところに、五十年前と変わらずツメタガイがいくつも落ちていました。当時と変わったところといえば、風力発電の風車が林立していることでしょう。

（2025年5月下旬／茨城県神栖市波崎砂丘）

